

多様な需要に対応するための種子供給体制等の整備

【令和6年度予算額 32（39）百万円】

<対策のポイント>

- ポストコロナにおいて更に需要が多様化する中、これらに対応した国産農産物の種子の生産・供給体制の確立により、需要の変化に対応した産地づくりの取組を推進します。
- 具体的には、①**高純度・高品質な種子の省力的な生産技術の開発**を推進するとともに、②品種開発者、種子場、実需者の連携のもと、ニーズのある輸出用米、中食・外食向け等品種の**種子の生産・供給体制の構築に向けた取組**を支援します。

<政策目標>

- 種子生産作業の省力化、充実種子生産のための栽培管理支援ツールの開発
- ニーズのある用途（輸出用米、中食・外食向け等）の品種の種子生産・供給体制の構築に向けたモデル事例の創出

<事業の内容>

1. 農林水産研究推進事業

品種多様性拡大に向けた種子生産の効率化技術の開発

種子生産農家の作業負担軽減や若手農業者・新規事業者の種子生産への参入促進のため、交雑防止、病害防除、異茎株・罹病株検出支援等の種子生産にかかる省力化技術を開発します。

2. 戦略作物生産拡大支援事業

需要に応じた種子生産・供給体制構築支援事業

① 多様なニーズに対応した種子供給体制の確立

品種開発者又は実需者が中心となり、ニーズのある輸出用米、中食・外食向け、加工用米、麦・大豆等の品種の供給拡大に向けて、複数の種子場において種子生産の拡大を図る場合（※）に、必要となる以下の経費を支援

（※）原種生産の場合に限り種子場は複数でなくとも可。

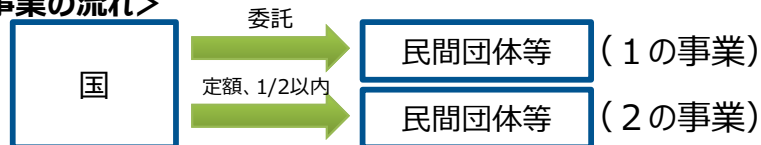
- ・種子生産に関する技術検討会等の会議の開催に要する経費
- ・種子生産の技術体系の実証、普及に要する経費 等

② 原種生産の効率化に必要な機械の導入支援

①の取り組みに参加する種子場において、新たに原種生産に取り組む場合に必要となる共同利用のための機械の導入を支援

- ・種子生産の効率化に必要な共同利用のための乾燥調製機器、乗用管理機、収穫機 等

<事業の流れ>



<事業イメージ>

品種多様性拡大に向けた種子生産の効率化技術の開発

- ・真夏の異茎株抜き取りなど、異品種や病気の混入を防ぐ作業が大変！
- ・種子生産技術の後継者がいない。



- ・異茎株・罹病株混入を防ぐ省力的な高品質種子生産技術を開発。
- ・新規参入者が発芽率の高い種子を生産するための栽培管理支援ツールを開発。
- ・種子生産効率化を実証。

需要に応じた種子生産・供給体制構築支援事業

関係者それぞれの課題を解決、コンソーシアムによる連携で、

【品種開発者】

自社開発品種について、スポット的な生産だけではなく、更なる生産拡大をすることで需要者のニーズに応えたい。



【実需者（米卸等）】

コメ生産を担ってくれる産地の目処はついてるが、ニーズのある品種の種子生産に協力してくれる種子場（種子生産者）が見つからない。

【種子場（種子生産者）】

新品種の種子の生産技術や知見がない、収穫した種子を翌年の一般栽培用に購入してもらえるか不安があるため、新品種の種子生産に取り組みにくい。

関係者（品種開発者、種子場、実需者）が連携することで、①品種開発者がもつ栽培技術・ノウハウの種子場への横展開や、②需要者が持つ用途・品種ごとの需要情報の共有等により、安定的な種子生産・供給体制を構築。併せて、新たに原種供給力の強化が必要な場合に、共同利用機械等の導入を支援することで、需要に応じた種子生産・供給体制の構築を推進。

【お問い合わせ先】 農産局穀物課（03-3502-5965）